

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2012年10月)

発表日2012年11月12日(月)

～当面は横ばい圏内での推移となる見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 大塚 崇広

T E L : 03-5221-4525

(単位: %)

		国内企業物価		最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
11	4月	0.8	1.8	0.3	1.0	0.8	1.8	2.1	▲2.8	5.3	7.0
	5月	▲0.2	1.6	▲0.7	0.3	▲0.2	1.6	▲1.8	▲2.9	0.4	7.1
	6月	0.0	1.9	▲0.3	0.4	0.0	1.9	▲0.6	▲2.3	▲1.7	8.0
	7月	0.1	2.3	▲0.2	0.5	0.0	2.2	▲1.0	▲0.7	▲0.3	10.4
	8月	▲0.1	2.2	▲0.2	0.5	0.0	2.2	▲1.7	▲0.7	▲1.9	10.9
	9月	▲0.2	2.1	▲0.4	0.2	▲0.3	2.0	▲0.5	▲0.9	▲1.8	9.3
	10月	▲0.6	1.3	▲0.4	▲1.1	▲0.5	1.3	▲1.0	▲1.3	▲0.6	10.2
	11月	▲0.1	1.3	0.0	▲0.9	▲0.1	1.3	▲0.3	▲2.7	▲0.2	7.3
	12月	0.0	0.8	▲0.2	▲1.4	▲0.1	0.7	▲0.3	▲3.9	0.8	5.6
12	1月	▲0.1	0.3	▲0.2	▲1.5	▲0.1	0.1	▲0.5	▲4.7	▲1.9	1.6
	2月	0.2	0.4	0.4	▲1.2	0.2	0.2	1.9	▲3.7	2.1	2.0
	3月	0.5	0.3	0.7	▲1.2	0.5	0.2	3.5	▲0.4	6.1	6.2
	4月	▲0.1	▲0.6	▲0.4	▲1.9	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲3.0	0.2	1.1
	5月	▲0.4	▲0.8	▲0.6	▲1.8	▲0.4	▲1.0	▲2.4	▲3.7	▲2.8	▲2.2
	6月	▲0.7	▲1.5	▲0.5	▲2.0	▲0.7	▲1.7	▲1.4	▲4.4	▲2.8	▲3.3
	7月	▲0.6	▲2.2	▲0.5	▲2.3	▲0.6	▲2.3	▲0.8	▲4.3	▲2.6	▲5.6
	8月	0.2	▲1.9	0.2	▲1.9	0.1	▲2.2	0.1	▲2.5	0.0	▲3.8
	9月	0.2	▲1.5	0.3	▲1.2	0.2	▲1.7	0.0	▲2.0	1.5	▲0.6
	10月	▲0.1	▲1.0	0.0	▲0.8	0.0	▲1.2	0.5	▲0.4	0.1	0.1

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○国内企業物価は電力・都市ガス・水道を除けば、総じて横ばいでの推移

10月の国内企業物価指数は前年比▲1.0%とほぼコンセンサス(同▲0.8%、レンジ: 同▲1.6%～▲0.5%)通りの結果となった。前月比でみると▲0.3%であったが、夏季電力料金剥落の影響が大きく、その影響を除けば前月比▲0.1%とほぼ横ばいでの推移となった。

夏季電力調整後の内訳をみると、年前半までの燃料費高の影響が落ち着いたことを背景に電気・都市ガス・水道が夏季電力調整後も前月比▲1.4%、前月比寄与度▲0.08%ポイントとマイナスに寄与した。その他、前月比マイナスに寄与したのは鉄鋼、スクラップ類などであった一方、前月比プラスに寄与したのは食料品・飲料・たばこ・飼料、化学製品などであった。総じて夏季電力料金終了の影響を除けば横ばいでの推移である。

○輸出入物価は市況の下落に伴い契約通貨ベースでは前月比マイナスに

輸入物価(契約通貨ベース)は前月比▲0.6%と国際商品市況の下落を背景に3ヶ月ぶりに前月比マイナスとなった。また、輸出物価(契約通貨ベース)も同▲0.1%と電気・電子機器の下落を中心に3ヶ月ぶりの前月比マイナスとなった。一方、円ベースでみると輸入物価は前月比+0.1%、輸出物価は同+0.5%と円安が進んだことで前月比プラスとなった。

○国内の消費財価格は上昇が一服

需要段階別指数（国内＋輸入）をみると、素原材料は前年比▲1.3%（前月比▲2.3%）、中間財は同▲0.9%（同▲0.1%）、最終財は同▲0.3%（同+0.3%）であった。また、消費者物価と関連の深い国内の消費財価格は前月比0.0%（前年比▲0.8%）と前月までの上昇が一服した。デフレ圧力が根強い中において、消費者物価指数も当面はゼロ～小幅マイナス圏での推移が予想される。

○当面は横ばい圏内で推移しよう。世界経済の回復に伴い徐々に回復も、回復ペースは緩慢なものに。

先行きを展望すると、国内企業物価に大きな影響を与える国際商品市況は世界的な金融緩和・緩和期待が上昇圧力となるものの、当面は実需の弱さが重石となろう。国内企業物価は当面横ばい圏内で推移するものとみられる。一方、足元では中国経済に復調の兆しがあり、国際商品市況は世界経済の回復に伴い徐々に持ち直しの動きがみられ始めると予想する。国際商品市況の持ち直しを背景に国内企業物価も徐々に回復に向かうとみられるが、海外経済の持ち直しの弱さから、回復ペースは非常に緩慢なものになるだろう。ただし、米国の“財政の崖”に対する対応や中国経済の持ち直しの遅れなどの下振れリスクには注意が必要だ。

